2020 年度さくらねこ無料不妊手術事業

行政枠アンケート　集計結果

さくらねこ無料不妊手術事業とは

どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」は野良猫や多頭飼育の猫に対して不妊手術を行い、猫への苦情や殺処分の減少に寄与する活動です。
2020 年度は 3,544 名の個人（一般枠）、35 団体、171 の行政と協働し、約 5 万頭のさくらねこ無料不妊手術を実施しました。

一般枠での無料不妊手術実施数　29,604 頭
団体枠での無料不妊手術実施数　1,973 頭
行政枠での無料不妊手術実施数　17,235 頭
多頭飼育救済枠（行政枠）での無料不妊手術実施数　1,062 頭（うち犬 11 頭含む）

無料不妊手術実施頭数　総合計 ： 49,874 頭

1. アンケート概要

2020 年度に「さくらねこ無料不妊手術事業」に申請があった協働ボランティア（行政枠）に事後調査アンケートを実施しました。
※行政枠の対象は、行政（地方公共団体）およびそれに準ずる団体です。公園管理事務局等、行政が管理する施設の管理者や、大学等教育機関も行政枠の対象となります。

- 2020 年度さくらねこ無料不妊手術チケット申請行政数　171 件
- アンケート有効回答数 152 件

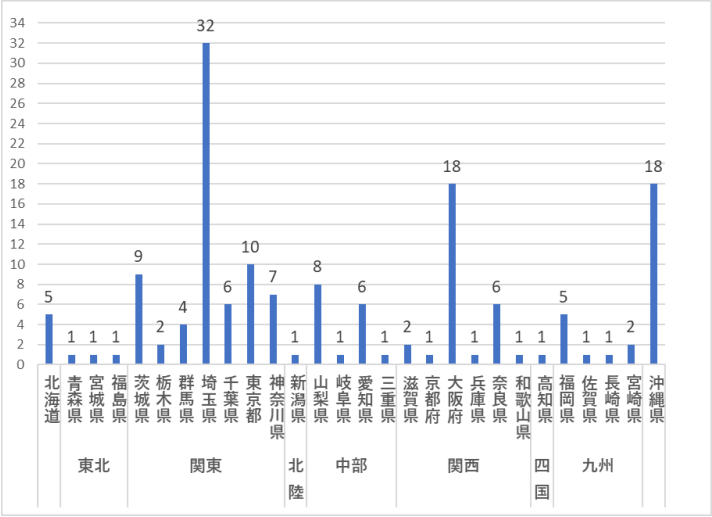
2. 団体について

団体の種類	票数	%
地方公共団体（都道府県）	5	3%
地方公共団体（市町村）	143	94%
公園等の指定管理者	4	3%
その他	0	0%

3. 都道府県別団体数

埼玉県が 32 件で最多となっており、次いで大阪府、沖縄県が 18 件と続きました。

地方別では、関東地方が 70 件と全体の 47%を占めています。関西地方の 30 件と合わせると、約 7 割が大都市圏の行政による活動です。



4. チケットの使用について

申請者からのチケットの分配方法 （複数回答）	票数	%
ボランティアに分配した	135	89%
申請団体が自ら猫を捕獲して使用した	24	16%

チケットの使用方法 （複数回答）	票数	%
実際の TNR 作業はボランティアがすべて行った	118	78%
実際の TNR 作業は申請者自身がすべて行った	10	7%
申請者とボランティアが協働して TNR 作業を行った	34	22%

5. 猫の引き取り数

TNR 後の行政による猫の引き取り数について （回答数 71）	票数	%
前年と比べて減った	43	45%
前年と比べて変わらない	47	49%
前年と比べて増えた	6	6%

6. チケット申請回数

2020 年度にチケットを申請した回数	票数	%
1 回	31	20%
2 回	13	9%
3 回	34	22%
4 回	51	34%
5 回	17	11%
6 回	3	2%
8 回	1	1%
10 回	1	1%
12 回	1	1%

7. 配布チケット数

2020 年度に配布を受けたチケットの数	票数	%
1～10	9	6%
11～30	21	14%
31～60	15	10%
61～100	18	12%
101～200	43	28%
201 以上	27	18%

46%の団体が 101 枚以上のチケットの配布を受けました。

配布されたチケットの使用率	票数	%
100%	37	24%
80～99%	61	40%
60～79%	24	16%
40～59%	9	6%
20～39%	5	3%
1～19%	1	1%
使わなかった	15	10%

64%の団体が 80%以上の使用率でした。

8. 対象地域

さくらねこ TNR をした猫と地域について	票数	%
行政に地域猫活動地域として認められ管理されている地域	30	20%
行政が認めた地域猫活動地域ではないが、不妊・去勢手術の実施が必要な地域	112	75%
管理している施設の敷地（公園、港湾、学校など）	7	5%

行政に公式に認められた地域猫活動地域は 20%でした。
行政枠チケットは申請主体が行政となるため、一般枠や団体枠と比べて割合が高くなります。

TNR を行った場所（複数回答）	票数	%
住宅地	130	86%
公園	53	35%
港湾	14	9%
学校	0	0%
公共施設	16	11%
その他	33	22%

9. さくらねこ TNR を実施した猫の変化

TNR を実施した地域の猫に関して（複数回答）	票数	%
子猫の出産が減った	117	77%
猫の性格が穏やかになった	33	22%
さかり声、ケンカが減った・ほぼ無くなった	43	28%
尿臭が激減した・ほぼなくなった	21	14%
猫の健康状態が良くなった	19	13%
その他	24	16%

その他は、「調査を行っておらず不明」「実施数がまだ少なく経過観察中」というものでした。また、ある団体からは、事故等により道路上などで死亡する猫の数が、例年 250 頭前後で横ばいだったが、TNR を初めて 70 頭減少したという報告もありました。

10. 新たな捨て猫の数

TNR 後の新たな捨て猫の数について	票数	%
捨て猫が減った	33	22%
捨て猫の数は変わらない	13	9%
捨て猫が増えた	1	1%
わからない	105	69%

11. 住民や猫ボランティアとの関係の変化

住民や猫ボランティアと申請者（行政側）の関係は	票数	%
良くなった	106	70%
変わらない	46	30%
悪くなった	0	0%

「悪くなった」と回答した団体はなく、70%の団体が「良くなった」と回答しています。「行政が猫の問題に真摯に向き合っていると評価されている」「地域住民にも不妊手術が行われることに対する安堵感が生まれた」という声のほか、「地元のボランティア団体と密に連絡を取るようになり、相互理解が進んだ」という報告もありました。

12. 地域住民との関わりの変化

TNR を実施した地域住民との関わりの変化について（複数回答）	票数	%
住民の理解が得られた	66	43%
苦情が減った	73	48%
餌やりさんのマナーが改善された・意識が向上した	45	30%
協力してくれるひとが増えた（できた）	54	36%
地域の人に感謝された	51	34%
猫を可愛がってくれる人が増えた	14	9%
その他	5	3%
変わらない	17	11%

13. 今後の課題

今後の課題や問題（複数回答）	票数	%
人手不足	85	56%
資金不足	46	30%
捕獲のやり方	38	25%
地域住民との調整	84	55%
活動団体との調整	50	33%
その他	5	3%
特になし	16	11%

14. 飼い猫の捕獲について

2020 年度の本事業で飼い猫を捕獲した事があった	票数	%
はい	9	6%
いいえ	143	94%

2020 年度の本事業で飼い猫を間違って手術して問題になった	票数	%
はい	0	0%
いいえ	152	100%

アンケート回答者 152 団体のうち 9 団体（6%）が、飼い猫が捕獲機に入ったと回答しましたが、間違って手術したケースはありませんでした。

15. 所感

今回、行政枠無料不妊手術事業を活用して	票数	%
大変良かった	116	76.3%
良かった	25	16.4%
普通	11	7.2%
悪かった	0	0%
大変悪かった	0	0%

約 76%の団体が「大変良かった」と回答しています。「普通」と回答した団体では、「まだ TNR を開始していない」「始めたばかりでまだ効果が実感できていない」という声のほか、「現在の体制では、ボランティアがいなければ事業が成り立たないため“普通”とした」との回答がありました。

16. 来年度に向けて

来年度も行政枠無料不妊手術事業を	票数	%
活用したい	146	96%
活用したくない	2	1%
検討中	4	3%

「活用したくない」と回答した 2 団体の理由は、1 団体は「今後の活用予定がない」、もう 1 団体は「地域猫問題を取り扱う部署が他に決まったため、今後活用することがなくなった」というものです。また「検討中」と回答した団体については、「チケットを使用できる病院が限られており、搬送が難しい」「実施予定地域の理解を得てから考えたい」といった理由でした。

17. ピックアップコメント

【地域住民からの声や、地域住民との関わりにおいて気づいた変化】

- 猫が繁殖し続ける環境に歯止めがかかり、地域住民としても、猫の処分まではしたくないという意識があるなか、不妊手術を行うことによる安堵感が生まれた。

- 市民の間で「さくらねこ」の認識が浸透したおかげで、「さくらねこなら我慢するか」と考える相談者が増えた。

- 当初は、さくらねこ無料不妊手術事業の啓発が行き届いておらず、住民から猫ボランティアへの苦情を受けることがありましたが、TNR 活動が認知されるにつれ、不妊手術実施の際に住民自ら手伝うなどの変化がありました。

- 本市では TNR 費用の補助金を交付していますが、昨年度は例年より早く予算を使い切り、市としてサポートを続けることが困難となっていました。しかし、昨年度終盤から動物愛護推進員とともにチケットを利用させていただいたおかげで、TNR について継続的なサポートを行うことができ、住民やボランティアと良好な関係を維持できたと考えています。

【どうぶつ基金にご寄付をいただいた皆様へ】

- みなさまの善意で、人と猫が共存していくための事業をすることができています。猫好きも多いですが、猫嫌いも多い状況があります。その苦情を少しでも減らすためにTNR事業は不可欠です。そしてなにより猫に罪はありません。不幸な命が増えないよう今後も努力して参りますので、引き続きご支援をいただけたら幸です。本当に感謝しております。

- どうぶつ基金の行政枠チケットを活用して、当町では昨年度飼い主のいない猫 350 頭の TNR を実施することができました。これも、基金へご寄付いただいてるみなさまのおかげと感謝しております。引き続き、飼い主のいない猫の望まれない繁殖を抑制するために本事業を実施してまいりたいと存じます。

- 猫の相談を受けるたびにどうしようか頭をかかえておりましたが、どうぶつ基金様のチケットを使わせていただけることで、解決の糸口となり、不幸な命を生み出さない活動に取り組む事が出来ています。また、相談者（住民）さんにこの活動の話をすると納得され、猫に対してもあたたかく見守るようになっていただけることがあります。このような活動を広く行い、支えていただいて本当にありがとうございます。ご寄付をしていただいた皆様の暖かいお気持ちに心から感謝をしております。

- 本事業を通じて命の重さ大切さを再認識し、不幸な命を増やさないために活動協力する皆様へ改めて感謝申し上げます。私も感化され昨年より、さくらねこサポーターとして微力ながらサポートさせていただくことになりました。本事業の趣旨に賛同する人が増え問題を抱えている猫・人・環境が改善されますように、今後とも特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

18. 総括

- 2020 年度、行政枠のチケット発行団体数は 171 団体でした。年々増加傾向にあり、2019 年度の 118 団体から 53 団体の増加です。また、登録団体数についても、2020 年度は 140 団体が新規登録して総数 258 団体となりました。現在も、すでに行政枠チケットを活用している近隣市の成功事例を目の当たりにし、「ぜひ当市でも参加を検討したい」という問い合わせを多くいただいています。
  行政枠チケットの発行が始まってから 4 年、地道に成功事例を積み上げてきたことが、ここにきて形になりつつあります。TNR 活動への理解を深め、さらに広げていくためには、自治体が持つ市民への広報力が必要です。引き続き、新規登録の増加ペースを維持できるよう努めていきます。

- 今回、行政枠無料不妊手術事業を活用して「大変悪かった」または「悪かった」と回答した団体はありませんでした。11 団体が「普通」と回答していますが、その理由の多くは、利用を始めたばかりで効果が測定できていないというものです。また、興味深い理由として「現在の体制では、ボランティアがいなければ事業が成り立たないから」というものがありました。アンケート項目の「申請者からのチケットの分配方法」「チケットの使用方法」の結果からも読み取れるように、多くの行政が TNR 活動のノウハウを持たず、ボランティア頼みとなってしまう行政枠特有の問題が表れています。
  90%を超える団体が「大変良かった」「良かった」と回答するなど、各担当者が TNR 活動の効果を実感している今だからこそ、次のステップとして、行政担当者に TNR 活動のノウハウを伝える、そして担当課や次の担当者へ引き継いでもらうという、側面的な支援も求められるのではないかと感じました。

- 行政に公式に認められた地域猫活動地域での事業は、一般枠及び団体枠のアンケート結果で得られた割合よりは多いものの、回答 152 件中の 30 件でした。全体の 20%で、やはり大きな伸びは見られません。環境省が推奨する従来型の地域猫活動については、これまでも問題点を指摘してきましたが、今回のアンケート結果からも、従来型の地域猫活動の普及がいかに困難であるかが分かります。
  寄せられた回答のなかには、どうぶつ基金が取り組むTNR先行型地域猫活動を始めたことで、従来型の地域猫活動への理解が深まったという声もありました。猫問題に悩む地域住民のみならず、苦情を受けて地域住民とボランティアの板挟みとなる行政にとっても、TNR先行型地域猫活動は、現時点で考えられる最善の対応策であり、さまざまな問題の解決に有効であることが分かります。

- 飼い主のいない猫の不妊手術に助成金を出す自治体も増えてきてはいますが、地域住民の理解が得られないとして予算確保が進まない自治体がほとんどです。また、助成金制度のある自治体でも、「制約が多く、支援対象から外れてしまう地域がある」「予算を使い切ると支援ができなくなるので困っている」等の声があるように、自治体の各担当者も悩んでいる状況がうかがえます。
  多くの団体から、どうぶつ基金のさくらねこ無料不妊手術事業は、申請がスムーズ、支援決定が速い、地域住民やボランティアの金銭的負担がない、行政が公式に認めた地域猫活動地域以外でも使用できるというメリットがあり、苦情対応がやりやすくなったという声が寄せられています。
  TNR は時間との戦いです。従来型の地域猫活動では、合意形成に時間を要している間に、ますます事態が悪化します。「一度走り出したら何があっても止まらない」のは日本の行政の悪いところ。環境省には、「不幸な命を減らす」という本来の目的を見失うことなく、TNR先行型地域猫活動への転換という勇気ある決断を求めます。